

小学校第2学年 生活科 学習指導案

期 日 平成 25 年 9 月 27 日(金) 第 5 校時
場 所 宇城市立青海小学校 2 年 1 組教室
指導者 教諭 朝倉 朋実

1 単元名

「うごくうごくわたしのおもちゃ」(東京書籍 下)

2 単元について

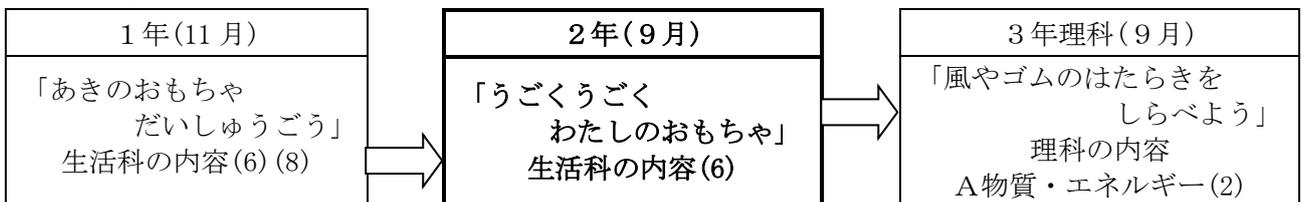
(1) 単元観

生活の変化に伴って、児童の遊びの内容は、室内でも屋外でも共通して、コンピュータゲームやテレビなど、人や自然と関わったり、身体を動かしたりすることの少ない遊びをしている児童が多く、工夫して遊びを楽しむといった経験が少なくなっている。

そこで本単元は、学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」、具体的な視点「ケ遊びの工夫」に重点を置き設定した。この単元では、児童が身近にある物を使って、動くおもちゃを作り出す楽しさや、夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるようにすることを目指している。また、友達とのかかわり合いを通して、約束やルールが大切なことや、それを守って遊ぶと楽しいことに気付かせたり、友達のよさや自分との違いに気付き、相手の考えを尊重したりできる態度を身に付けさせたいと考える。

また、この単元を通して、児童が自分の創意を生かし、自分の手でおもちゃを作り上げた満足感を味わうことで、更に自分の生活を豊かにしていこうとする実践的な態度が育つと考える。

(2) 系統観



(3) 児童観

- 本学級は、男子6人、女子6人、計12人である。男女共に仲よく遊んだり学習したりすることができる。約束やルールは理解し、概ね守ることはできているが、楽しいことや夢中になると、約束やルールを忘れてしまう児童もいる。
- 学習課題や作業に対する意欲は高い。生活科の時間はほとんどの児童が好きで、活動に意欲的に取り組むことができる。グループでの活動も協力して取り組む児童が多い。
- 1年の単元「あきのおもちゃ だいしゅうごう」では、自分で集めた秋のものを使って、どんぐりごまや松ぼっくりのけん玉などを作り、友達と一緒に楽しく遊ぶことができた。また、祖父母に昔遊びを教えてもらったり、園児を招待し、遊び方を教えたり一緒に楽しく遊んだりして、仲よく交流した経験があり、自分で作ったもので遊ぶことや様々な人との交流の楽しさを実感できている。
- 生活科の時間は一生懸命活動することができるが、もっとうまくいくように考えたり、分からないことを聞いたり調べたりすることについては、まだ十分に経験できていない児童が多い。しかし、うまく表現できない児童の思いを汲み取って助言したり、尋ね方や調べ方を教えたりしながら経験を積み重ねることで、主体的に行動することができるようになると思われる。
- 7月の「生きものなかよし大作せん」では、自分が育てた生きものについて、分かったことや気付いたことをグループごとにまとめ、1年生に発表することができた。1年生のことを考えて活動することや、友達と協力してまとめたり伝えたりすることの大切さが意識できるようになってきている。

(4) 指導観

- 出会いの過程において、児童が自分もおもちゃを作って遊んでみたいという意欲が高まるよう、十分に遊ぶことができる場と時間の設定を工夫し、児童が友達と仲よく遊んでいたり、おもちゃの動きについて気付いたりした姿を認め、ほめる言葉かけを意識して行う。
- 友達と話し合ったり考えたことを発表したりする際に、児童の言葉を補ったり、ICTを活用して視覚的に理解しやすいよう工夫したりして、児童一人一人の気付きを全員で共有できるようにする。
- 児童の「作りたい」「やってみたい」という気持ちを大切にするとともに、友達と伝え合い交流する活動を積極的に設け、分からないことがあっても積極的に尋ねたり、もっとうまくいくように自ら工夫したりと、児童一人一人が主体的に活動できる授業づくりに努める。
- 作ったおもちゃを1年生に紹介して一緒に遊ぶ「おもちゃ大会」を設定し、1年生に楽しんでもらうための相手意識と目的意識を持った活動を展開することで、単元を通して学習意欲が持続できるようにする。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
<p>○「出会い」「イメージ化」「試しの体験」「情報加工(情報収集)」「本格的な体験」「体験や成長の振り返り」という探究的な学習過程を設定し、自分が作ってみたいおもちゃを作って遊んだり、作ったおもちゃを使っておもちゃ大会を開いたりするという具体的な活動を繰り返す中で、児童の気付きの質の高まりを見取っていく。</p> <p>○児童の思考の深まりや高まりを見取るために伝え合い交流する場で児童同士をつなぐ言葉かけを意識して活用する。</p>	<p>○「イメージ化」の過程でパフォーマンス課題を提示し、身近な物を利用して動くおもちゃを工夫して作ったり遊んだりしたことを自分なりの表現方法で表すという児童の「思考・表現」を連続的に見取ることができるようにする。</p> <p>○児童の姿を見取る際には、行動観察やカード分析などに、問いかけ、対話分析(能動的な評価)を関連付けて見取っていく。また、問いかけや対話においては、カウンセリングの手法を用いた言葉かけを活用する。</p>	<p>○「情報加工(情報収集)」の過程において、自分が作ったおもちゃがもっとよりよく動くにはどうしたらよいか、友達のおもちゃと比べたり工夫を教え合ったりする学び合いの場を工夫する。</p> <p>○振り返り表現する場や伝え合い交流する場において、教師や児童が効果的にICTを活用することにより、一人一人の気付きを質的に高めたり、一人一人の気付きを全員で共有し、みんなで高めたりしていくことができるようにする。</p>

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	身近にある物を使って、動くおもちゃを工夫して作り、おもちゃ作りや動くおもちゃを使ったおもちゃランドの遊びを通して、その動きの面白さや不思議さに気付き、みんなで楽しむことができるようにする。
生活への 関心・意欲・態度	①動くおもちゃに関心をもって遊ぼうとしている。 ②身近な物を使って、動くおもちゃを作ろうとしている。
活動や体験についての思考・表現	①自分が作りたいと思うおもちゃを決めている。 ②比べたり、試したり、見立てたりして、遊びを工夫している。 ③遊びの約束やルールなどを考え、遊びを作り出している。 ④遊びを工夫したり、友達とかかわって遊んだりしたことを振り返り、自分なりの方法で表している。
身近な環境や自分についての気付き	①自然の事物や現象の不思議さに気付いている。 ②約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 ③友達とかかわって遊ぶ楽しさ、友達のよさや自分との違いに気付いている。

4 指導・評価の計画(12時間取扱い 本時5/12)

小単元	過程	時	学習活動	指導上の留意点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B基準
うごくおもちゃをつくる	出会い	1	○1年生の時に作って遊んだ秋のおもちゃを思い出し、教師の製作した見本のおもちゃで遊ぶ。 	・遊んだ後、動力に関心をもつように、どんな力で動くのか話し合わせる。	感・意・態①(行動・つぶやき) 見本のおもちゃで友達と遊び自分でも作ってみたいという思いをもっている。
	イメージ化	1	○自分が作って遊んでみたいおもちゃを決め、「おもちゃ作りの計画」(学習シート1)を立てる。	【視点2】パフォーマンス課題を提示し、計画を立てたことをもとに、目的意識をもって試しの体験や本格的な体験ができるようにする。	思考・表現①(学習シート) 見本のおもちゃや教科書等を見ながら、自分の作りたいおもちゃを決め、計画を学習シートに書いている。
	試しの体験	2	○自分が作りたいおもちゃを作って遊ぶ。 	・おもちゃを作る場所、作ったおもちゃで遊ぶ場所などの場の設定を工夫する。 【視点2】児童の姿をよく観察し、個に応じた指導を行う。その際、カウンセリングの技法を用いた言葉かけを意識して行う。	感・意・態②(行動) 必要な材料を集め、自分が作りたいおもちゃを作ろうとしている。
もつとくふうしよう	情報加工(情報収集)	2(本時1/2)	○動きをもっとよくするための方法を考え、自分のおもちゃを改良する。 ○「おもちゃ作りほうくしよ」(学習シート2)をかき、工夫したことを伝え合う。 	【視点3】自分のおもちゃの動きをもっとよくするために、友達のおもちゃと比べたり、教えてもらったりする学び合いの場を設定し、情報加工ができるようにする。 【視点1】おもちゃ作りの工夫を伝え合う場面で、児童同士をつなぐ言葉かけを活用し、一人一人の気づきを全体で共有できるようにする。	思考・表現②(行動, 学習シート) 友達と教え合ったり、友達のおもちゃと比べたりしておもちゃを工夫して手直ししている。 気づき①(学習シート, 発言) 自分が作ったおもちゃの動力や仕組みを工夫すると動きが変わることに気づき、学習シートに書いている。

みんなであそぼう	本格的な体験	2	<p>○作ったおもちゃを使っておもちゃ大会を開く計画を立てる。(学習シート3)</p> <p>○おもちゃ大会を開く準備をする。</p>	<p>・1年生を招待する活動であることから、相手の立場に立って計画を立てることを意識させる。</p> <p>・1年生にとって遊びのルールが分かりやすいよう、場作りを工夫させる。</p>	<p>思考・表現③(学習シート) おもちゃを使った遊びのルールをグループで話し合い、学習シートにまとめている。</p> <p>思考・表現③(会話, 行動) 遊びのルールが分かる場を友達と話し合いながら作っている。</p>
		2	<p>○おもちゃ大会を開き、友達に遊び方を教えたり、一緒に遊んだりする。</p>	<p>・1年生が分かりやすいように、はっきりゆっくり話すよう気を付けさせる。</p> <p>・自分たちが決めたルールを事前にしっかり確認させ、1年生や学級の友達と一緒に仲よく遊ぶことができるようにする。</p> <p>【視点2】カウンセリングの技法を用いた言葉かけを意識して行う。</p>	<p>思考・表現③(会話, 行動) 自分のグループに遊びに来た友達に遊びのルールを説明したり遊び方を教えたりしている。</p> <p>気付き②(自己評価カード, 発言) 遊びのルールを工夫することで遊びが楽しめることに気付いている。</p>
 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>1年生も喜んでくれてうれしかったな。友達の遊びのコーナーも楽しかったね。</p> </div>					
体験や成長の振り返り	2	2	<p>○おもちゃ作りをしたり、おもちゃ大会を開いたりして気付いたことを自分なりの表現方法で表し、伝え合う。</p>	<p>【視点1】友達の発表を聞いて質問をしたり、感想を言ったりする時間を十分に確保する。</p> <p>【視点2】児童の気付きが発表の中に表れなかった場合には、教師がそのことについて問いかけたり対話をしたりしながら、自分の言葉で表現できるようにさせる。</p>	<p>思考・表現④(作品) おもちゃ大会を開いて楽しかったことや友達や自分のよさを絵や文で表し、友達と伝え合っている。</p> <p>気付き③(自己評価カード, 発言) 活動を通して自分のよさや心の成長、自分の存在など自分自身への気付きを話したり自己評価カードに書いていたりしている。</p>

※本単元における自分自身のよさを実感できている児童の姿の例

○ 友達と一緒に活動して、成功感や成就感を味わっている児童の姿

みんなでやったか
いがあったね。
またやってみ
たいな。



○ 自分のよさや得意としていること、興味関心をもっていることに気付いている児童の姿

ぼくは、お友達に教えることが上手だよ。



わたしは1年生が大好き。1年生に優しくできるよ。



○ 自分が大きくなったことやできるようになったこと、さらに成長できることなどに気付いている児童の姿

お友達とルールを守って仲良く遊べるようになったよ。



5 本時の学習

(1) 目標

自分の作ったおもちゃの動きがよりよくなるように、友達とパワーアップの方法を考え、自分なりにおもちゃを工夫して手直しすることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。	○自分で作ったおもちゃで遊んでみて、困ったことやもっとこうしたいと思うことはありませんか。	○おもちゃで遊んでいる様子の写真を提示することで、前時を振り返りやすくする。	写真
展開 30分	2 本時のめあてを知る。	○今日のめあては・・・ 自分のおもちゃをパワーアップさせよう!	○パワーアップとは、困ったことを解決したり、今よりもっとよく(うまく)動くようにしたりすることだとおさえておく。	ホワイトボード
	3 パワーアップする方法をグループで話し合う。	○グループの友達とパワーアップする方法を考え、ホワイトボードに書きましょう。 ・どんな方法話を話してる? ・困っていることはない? ○考えた方法を自分のおもちゃで試してみましょう。	○パワーアップしたらもっと楽しく遊ぶことができるという気持ちが高まる言葉かけをする。 ○ホワイトボードに記入する児童をグループで一人決めておき、話し合いにすぐ取り掛かることができるようにする。	
整理 10分	4 話し合ったことをもとに、自分のおもちゃを手直します。	※場の設定 	【思考・表現】(行動, 学習シート) B基準: 友達と教え合ったことをもとに、自分のおもちゃを工夫して手直ししている。 A基準: 友達と教え合ったことをもとに、自分のおもちゃを工夫して手直しし、試してみて、さらに気付いたり考えたりしたことを加えている。 (B基準に達していない児童への手立て) どこを手直ししたいのか問いかけたり、よく動く友達のおもちゃと比べたりできるように、子ども同士をつなぐ言葉かけを行う。	実物投影機
	5 手直ししてパワーアップできたところを学習シートに書き加え、友達と伝え合う。	○パワーアップできたところを、グループの友達と話しながら、学習シートに赤鉛筆で書き加え、友達と伝え合おう。	○パワーアップできたところを、グループの友達と話しながら、学習シートに赤鉛筆で書き加え、友達と伝え合おう。	
	6 教師の気づきを聞く。	○最後に今日の生活科の時間に先生が気付いたことをお話します。	○本時の児童の頑張りやよさをほめ、次時の活動への意欲につながるような言葉かけをする。	

